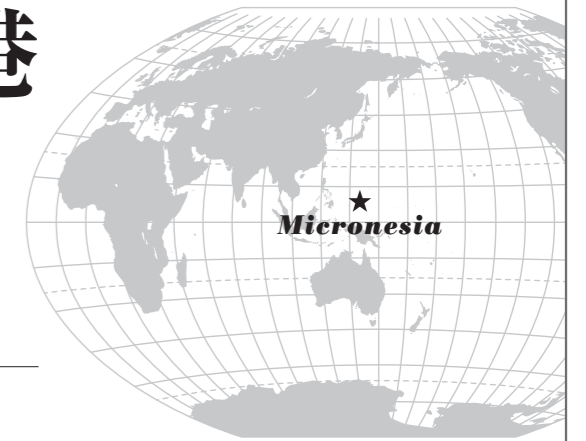


ポンペイ国際空港 改修工事



五洋建設株式会社 国際部門 国際事業本部 国際事業第1部 部長

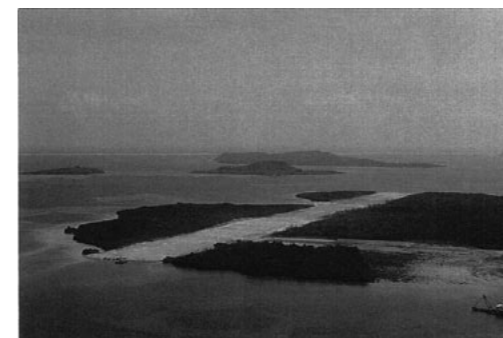
山田俊樹

Toshiki Yamada

ポンペイ国際空港

ポンペイ国際空港は、ミクロネシア連邦の首都パリキール市を有するポンペイ島の首都空港である。ミクロネシア連邦は太平洋カロリン諸島に属する島国で、東京の南南東方向約三、七〇〇キロメートルに位置する。第二次世界大戦以前こは日本の統治下で、戦後は国連の信託統治領でアメリカ合衆国が施政権者であったが、一九八六年独立を果たした。

このポンペイ国際空港は今から四五年前に当社が国連信託統治事務所より工事を受注、埋め立て、滑走路建設工事を担当し、一九六九年に



1968~1969年 空港島全景

開港した。現在は年間約四万人の旅客が利用している。本島から島外への旅客交通機関は航空便が唯一で、週七便の旅客定期便と生鮮食料品などの生活物資を運ぶ定期貨物便の週二便、合計週九便が本空港を利用していている。

プロジェクト概要

現在、アメリカ合衆国連邦航空局出資による空港改良工事が最終段階を迎えている。当社は二〇〇六年五月受注の「緊急補修工事」を皮切りに、二〇〇八年三月の「空港改良第一期工事」、二〇〇八年十二月の「第二期工事」、二〇〇九年九月の「第三期工事」を受注し、滑走路・誘導路・駐機場のアスファルトオーバーレイ、滑走路ショルダー部の拡幅、誘導灯の更新、消防施設の新設を行い、現在は空港外周道路の新設と付帯設備の取り付けを行っている。

一連の連邦航空局の工事と並行して、当社は二〇〇九年日本国ODA無償工事である、「ポンペイ国際空港改善計画」を受注した。滑走路東側海上約二五〇メートルを埋め立て、滑走路を延長し日本—ミクロネシア間のダイレクトフライトが可能となるB七六七型機が離発着出来る空港にするとともに、空港ターミナルビルの新設と既設の改修工事を施工し設備の充実と機能の拡大を図った。

森元首相を主賓としてセレモニー

ODA無償工事は二〇一二年八月に完工し、翌二〇一二年六月にはミクロネシアに所縁の深い森元首相を主賓とし、オープニング・セレモニーおよび日本・ミクロネシア直行便セレモニーが催され、成田空港—ポンペイ空港のダイレクトフライト・チャーター便が関係者を乗せてポンペイ空港に降り立ち、新しいターミナルビルで式典が執り行われた。日本から人気タレントの滝沢秀明氏（特命観光大使）、受け入れ側のミクロネシア大統領、ミクロネシア外務大臣、在日ミクロネシア大使、ポンペイ州知事などが参加、盛大なセレモニーであった。

新しい空港から未来へむけて

ポンペイ空港はこの度の日本国・アメリカ合衆国の両国政府経済協力の空港改修工事によって完全にリニューアルされ、より良いサービスの提供が期待される。そのターミナルビルからポンペイ島に足を踏み入れれば、そこには美しい海、島のランドマークであるソケーズロックや謎の石組構造物であるナン・マドール遺跡、旧日本軍の要塞跡地など数々の観光地やダイビングスポット・大物魚釣りなど南洋の魅力にあふれている。これらの観光資源をベースとしてミクロネシア連邦が観光立国として益々の発展を遂げることを願ってやまない。



現在の空港島全景



新ターミナルビルと駐車場



新設到着ホール、手荷物受取ターンテーブル



日本・ミクロネシア直行便セレモニー参加の皆さん